

## 2023年度「千教組勤務実態」の結果について



2023年11月20日  
千葉県教職員組合生活部

### 1 調査方法等

#### (1) 調査時期

2023年9月～10月

#### (2) 調査対象教職員

教諭（再任用含） 助教諭 主幹教諭 養護教諭 学校事務職員 栄養教諭 栄養職員  
臨時的任用講師 会計年度任用職員 任期付職員（※回答数 4,473人）

#### (3) 調査の実施方法

web 調査 ※QRコードからのwebアンケート（スマホ、パソコンで回答）

### 2 調査結果の概要

- 平日の1か月の時間外在校等時間について小学校では46.4時間（前年度比3.1時間減）、中学校では53.9時間（前年度比1.4時間減）となり、小・中学校ともに時間外在校等時間は減少している。
- 平日の1か月持ち帰り仕事時間について小学校では11.4時間（前年度比0.6時間減）、中学校では10.5時間（前年度比1.1時間減）となり、小・中学校ともに減少している。
- 土日の1か月の持ち帰り仕事時間について小学校では10.0時間（前年度比1.8時間減）、中学校では9.4時間（前年度比1.4時間減）となり、小・中学校ともに減少傾向にあるが、土日も持ち帰り仕事をしている。
- 今年度調査項目に追加した時間外在校等時間について小学校では9.1時間、中学校では27.8時間となり、土日も時間外勤務をしている。
- 時間外在校等時間と持ち帰り仕事時間を合わせると、小学校では69.1%、中学校では83.5%が月45時間以上時間外勤務をしている。また、小学校では27.5%、中学校では47.8%が月100時間以上時間外勤務をしている。
- 持ちコマ数の平均について小学校では25.7コマ（前年度比0.2コマ減）、中学校では20.1コマ（前年度比0.2コマ増）となり、小・中学校で持ちコマ数の増減に差が見られた。
- 学年等別の持ちコマ数や空きコマ数（子どもがいる時間）では、持ちコマ数では小学校特別支援学級担任が27.4コマと最も多く、空きコマ数では小学校1年生担任が0.7コマと最も少ない。
- 子どもと向きあう時間の確保については小学校では59.4%（前年度比0.1ポイント増）、中学校では60.6%（前年度比1.2ポイント増）と約60%が肯定的に回答しているが、前年度と比較すると小・中学校ともに微増している。
- プライベートな時間の確保については小学校では56.2%、中学校では40.4%と小・中学校で差が見られた。

(1) 学年別持ちコマ数及び空きコマ数について

持ちコマ数と割合						
	小1		小2		小3	
持ちコマ数 (時間)	人数	割合	人数	割合	人数	割合
0-10	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10-14	0	0.0	0	0.0	1	0.3
15-19	2	0.6	3	1.0	2	0.6
20-24	70	20.3	69	22.5	110	32.4
25-29	273	79.1	234	76.2	220	64.9
30-	0	0.0	1	0.3	6	1.8
合計	345	100.0	307	100.0	339	100.0
平均持ちコマ数 (前年度)	24.8コマ(25.0)		25.1コマ(25.3)		25.2コマ(25.6)	
平均空きコマ数 (前年度)	0.7コマ(0.5)		1.0コマ(1.0)		2.9コマ(2.7)	

持ちコマ数と割合						
	小4		小5		小6	
持ちコマ数 (時間)	人数	割合	人数	割合	人数	割合
0-10	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10-14	0	0.0	0	0.0	0	0.0
15-19	3	0.9	2	0.6	2	0.5
20-24	76	22.8	114	32.1	122	31.9
25-29	238	71.5	218	61.4	221	57.7
30-	16	4.8	21	5.9	38	9.9
合計	333	100.0	355	100.0	383	100.0
平均持ちコマ数 (前年度)	25.9コマ(26.1)		25.5(25.6)		25.7コマ(25.6)	
平均空きコマ数 (前年度)	3.5コマ(3.5)		4.1コマ(4.2)		4.2コマ(4.1)	

持ちコマ数と割合						
	小 特支		小 ことば		担任なし・その他	
持ちコマ数 (時間)	人数	割合	人数	割合	人数	割合
0-4	0	0.0	0	0.0	2	1.3
5-9	0	0.0	0	0.0	36	23.1
10-14	3	0.7	0	0.0	47	30.1
15-19	9	2.0	2	4.5	37	23.7
20-24	36	8.1	14	31.8	24	15.4
25-29	328	73.4	21	47.7	10	6.4
30-	71	15.9	7	15.9	0	0.0
合計	447	100.0	44	100.0	156	100.0
平均持ちコマ数 (前年度)	27.4コマ(27.7)		25.8コマ(25.9)		14.2コマ(17.5)	
平均空きコマ数 (前年度)	1.4コマ(1.1)		2.0コマ(2.3)			

持ちコマ数と割合						
	中1		中2		中3	
持ちコマ数 (時間)	人数	割合	人数	割合	人数	割合
0-4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5-9	2	1.0	0	0.0	0	0.0
10-14	7	3.4	5	2.2	5	2.2
15-19	62	30.4	69	30.1	64	28.6
20-24	133	65.2	151	65.9	151	67.4
25-29	0	0.0	4	1.7	4	1.8
30-	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	204	100.0	229	100.0	224	100.0
平均持ちコマ数 (前年度)	19.6コマ (19.7)		20.0コマ (19.6)		19.8コマ (19.7)	
平均空きコマ数 (前年度)	6.9コマ (7.2)		6.9コマ (7.3)		7.0コマ (6.9)	

持ちコマ数と割合				
	中 特支		担任なし・その他	
持ちコマ数 (時間)	人数	割合	人数	割合
0-4	0	0.0	1	0.4
5-9	0	0.0	3	1.2
10-14	0	0.0	38	14.7
15-19	12	11.4	127	49.0
20-24	78	74.3	87	33.6
25-29	15	14.3	3	1.2
30-	0	0.0	0	0.0
合計	105	100.0	259	100.0
平均持ちコマ数	21.8コマ (21.5)		17.8コマ (17.9)	
平均空きコマ数	5.9コマ (6.0)			

○ 校種・学年別の持ちコマ数や空きコマ数の調査から、小学校の学級担任は小 1～小 6 までどの学年においても平均 25～26 コマとなっている。しかし、子どもがいる時間の空き時間については高学年ほど多く、学年が下がるほど空き時間が減ることがわかった。

中学校の学級担任は中 1～中 3 まで平均 19～20 コマとなっており、子どもがいる時間の空き時間についてはどの学年でも昨年度同様 7 コマ程度あることがわかった。特別支援学級では、小学校特支の持ちコマは 27.4 コマで空きコマは 1.4 コマ、中学校特支の持ちコマは 21.9 コマで空きコマは 5.8 コマであり、小学校と中学校での差が見られた。この差について小学校特支担任は、学級に多学年の児童がおり、自立活動や生活単元、日常生活を含め全ての教科を指導したり、交流学級についていたりする一方で、中学校特支担任は全ての教科を指導する形ではなく自立活動や生活単元と担当専門教科等を指導するため、空きコマ数に差が生じていると考えられる。

また、ことばの教室でも持ちコマは 25.8 コマ、空きコマは 2.2 コマと小学校の学級担任と比較してもほぼ変わらないことがわかった。

## (2) 空きコマなしの割合について

	空きコマなし	割合
小 1	246	33.9
小 2	165	22.7
小 3	23	3.2
小 4	4	0.6
小 5	5	0.7
小 6	8	1.1
小特支	265	36.5
中 1	0	0.0
中 2	0	0.0
中 3	1	0.1
中特支	1	0.1
ことば	8	1.1
合計	726	100.0

○ 子どもがいる時間の空きコマ数について、空きコマなしと回答した 726 人の割合を見ると、小学校特支が 36.5%、小 1 が 33.9%、小 2 が 22.7%と空きコマなしと回答した 9 割以上を占めている。特に小学校特支においては持ちコマ数も 27.4 コマと最も多く、さらに空きコマなしの割合が最も高い。昨年度と比較してもあまり状況は改善しておらず、多忙な状況が推察できる。

○ 小学校低学年においては、5 時間授業があることから、子どもが下校した後の 6 時間目を空きコマと捉えていることから、子どもがいる時間の空きコマがない割合が高いと推察できる。

○ 中学校において、調査結果からも空きコマがないことは例外であると言える。分会にもよるが、各学年に学級担任ではない副担任や学年主任、学年付きの教員がいることから空きコマを確保できていると推察できる。

## 空きコマなしでの問題点（現場の声より抜粋）

### 【小1】

- 連絡帳や児童の提出物の確認や返事などの対応をする時間がない。そのため児童が給食を食べている間に行っている。緊急の対応や朝登校していない児童の家庭連絡なども授業中に行っている状況である。
- 低学年は休み時間も見ていなければならないことも多く、学級事務が放課後までほとんどできません。
- 学年主任、研究主任を兼務しているので 低学年の担任といえども、空きコマがないと仕事が進みません。
- 子どもがいる間は事務仕事ができない。下校指導などもあるのに、低学年は空き時間がないのは、不公平と感じるときもある。

### 【小2】

- 事務仕事の時間がない。子どもが学校にいる間は空き時間がないので、息つく暇もありません。2年生なので、高学年に比べて早く下校しますが、それよりも空き時間がほしいです。短縮日課になると、他学年は空きがありますが、低学年はありません。正直体もきついです。
- 放課後は会議や研修がありなかなか事務仕事や学級の仕事ができず、勤務時間を超えて仕事をするのが当たり前になっている。空き時間がせめて週に1時間でもあれば学年便り1回分や学級費の購入計画など少しでも仕事ができる。
- 6時間目にあたる時間が毎日下校指導で15分程度とられ、会議、丸つけや評価、家庭連絡、授業準備等、全てが放課後の仕事になっている。業務が多く、意識していてもなかなか退勤時刻を早めることができない。

### 【小特支】

- 3年から6年まで4つの学年の児童がいるため、また、多くの支援が必要な児童が在籍しているため。空きコマがないため、児童がいるじかんは、児童の提出物を見たり、次の時間の授業準備をしたりすることができない。特別支援教育コーディネーターをしているが、通常学級に在籍する支援が必要な児童について観察したり、教育支援に関する資料の作成をしたりすることができない。
- 交流授業が難しい児童がいるため、必ず教室にいる必要がある。空き時間に事務作業をすることができない。不測の事態が起きると、他の児童に留守番をしてもらって対応する場合があります、負担をかけてしまう。
- 空き時間がないため、交流学級の学習の様子を見に行くことができない。付き添いができないので児童が交流学級の授業に参加できないことがある。
- 特別支援学級なので空きはありません。特別支援学級にも週に1時間は明き時間が欲しいですが、周囲は理解が難しいと思い、困っています。
- 通常級から時間割を組み始めたため、特別支援の子達が常に誰かしら学級にいる状態になり、空きコマもありますが、交流級での授業も見に行くことができず、困っています。特別支援コーディネーターですが、学校を見て回ることがなかなかできず、担任から拳がった児童の実態を見に行くことができません。

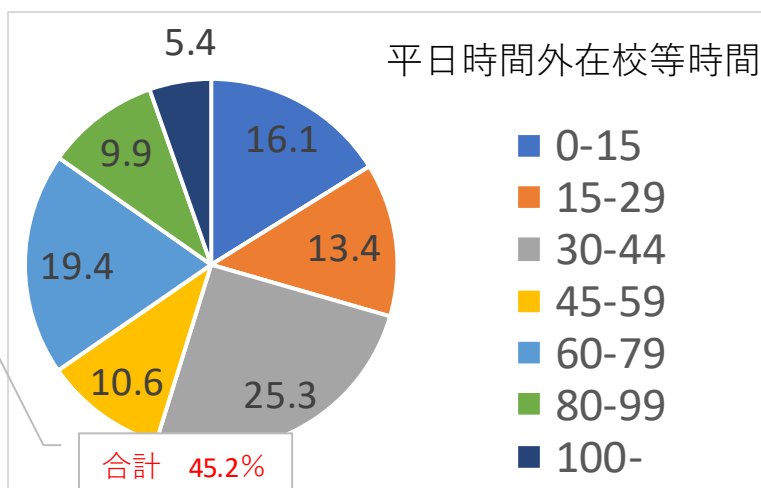
### 【その他】

- 複式の担任のため、空きコマがない。また、週2コマはワタリで授業をするのも大変。人数が少ないから複式なのは仕方ないことかもしれないが、校務分掌もたくさんあり、それらをこなす時間が空きコマがないため、放課後になる。
- 産休や育休の代替教員が見つからず、空き時間がなくなり、フルで働いている。代替教員を、なんとかして見つけてほしい。
- 年度途中から専科が産休に入ったため、空きコマがなくなった。連絡帳・宿題といった提出物の処理に休み時間を使うしかなく、児童との時間が取れない。また、運動会練習が業間・昼休みに実施されることもあり、運動会シーズンは余計に大変だった。

(3-1) 小・中学校における平日時間外在校等時間/月について

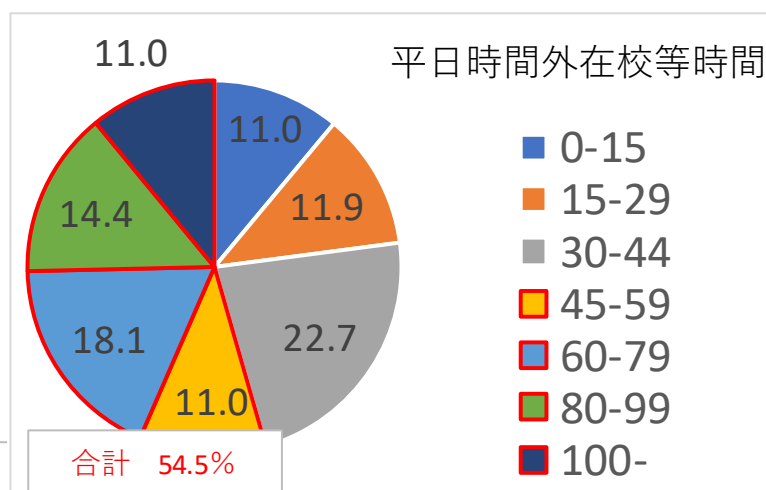
平日時間外在校等時間/月 (小学校)

時間外在校等時間	人数	割合
0-15	529	16.1
15-29	438	13.4
30-44	830	25.3
45-59	347	10.6
60-79	636	19.4
80-99	324	9.9
100-	176	5.4
平均 46.4時間(49.5)	3280	100.0



平日時間外在校等時間/月 (中学校)

時間外在校等時間	人数	割合
0-15	131	11.0
15-29	141	11.9
30-44	269	22.7
45-59	130	11.0
60-79	215	18.1
80-99	171	14.4
100-	130	11.0
平均 53.9時間 (55.3)	1187	100.0



	平日時間外(h)	土日時間外(h)	土日時間外割合	月 45 時間以上	月 80 時間以上
<b>2023 小学校</b>	<b>46.4 時間</b>	<b>9.1 時間</b>	<b>46.0%</b>	<b>45.2%</b>	<b>15.3%</b>
2022 小学校	49.5 時間			47.8%	17.9%
<b>2023 中学校</b>	<b>53.9 時間</b>	<b>27.8 時間</b>	<b>85.3%</b>	<b>54.5%</b>	<b>25.4%</b>
2022 中学校	55.3 時間			54.2%	25.5%

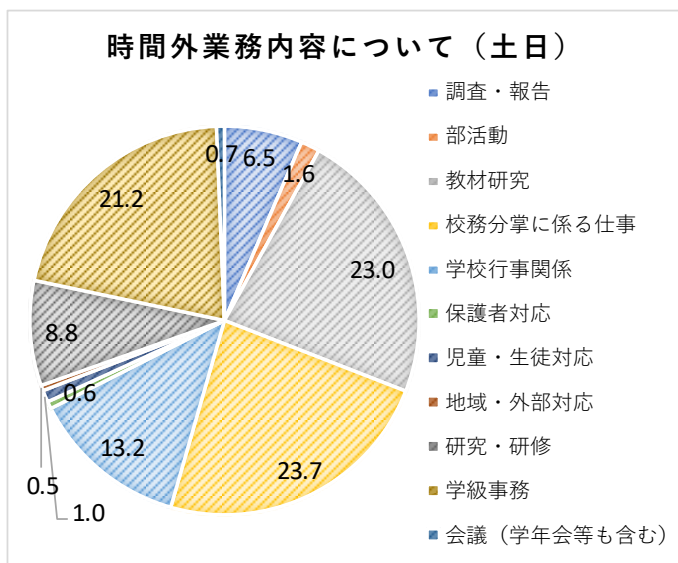
○ 平日の時間外在校等時間について、2022 年度と比較すると小・中学校とも減少している。さらに平日の時間外の合計が月 45 時間以上の割合や月 100 時間以上の割合も減少しており、昨年度と比べると今年度は小・中ともに平日の働き方改革が進んでいることがわかる。

○ また、県教委が出された『令和 4 年度第 1 回「教員等の出退勤時刻実態調査結果』』と比較すると、小学校の時間外在校等時間は 49 時間 45 分、中学校の時間外在校等時間は 65 時間 06 分となっている。今年度新たに調査項目に追加した土日の時間外勤務を足すと、小学校では 55.5 時間、中学校では 81.7 時間となり、県の調査結果よりも大幅に上回っている。このことから土日も含めた働き方改革は進んでいないと言える。

### (3-2) 小・中学校における土日時間外業務内容について

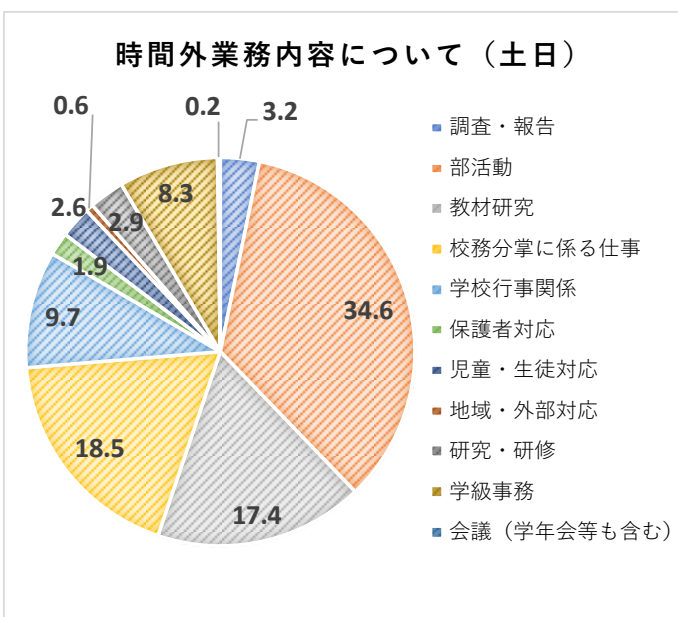
時間外業務（小学校）

時間外業務の内容	人数	割合
調査・報告	288	6.5
部活動	70	1.6
教材研究	1014	23.0
校務分掌に係る仕事	1044	23.7
学校行事関係	580	13.2
保護者対応	27	0.6
児童・生徒対応	44	1.0
地域・外部対応	20	0.5
研究・研修	388	8.8
学級事務	933	21.2
会議（学年会等も含む）	29	0.7
合計	4408	100.0



時間外業務（中学校）

時間外業務の内容	人数	割合
調査・報告	85	3.2
部活動	909	34.6
教材研究	457	17.4
校務分掌に係る仕事	486	18.5
学校行事関係	256	9.7
保護者対応	50	1.9
児童・生徒対応	69	2.6
地域・外部対応	17	0.6
研究・研修	77	2.9
学級事務	217	8.3
会議（学年会等も含む）	6	0.2
合計	2629	100.0



○ 土日の時間外勤務時間について小学校では 9.1 時間、中学校では 27.8 時間と約 3 倍の差が見られ、土日の時間外業務内容を見ると、小・中学校を比較すると大きな差が見られる。大きな差の要因となっているのが部活動である。小学校では、土日の時間外において、教材研究や校務分掌に係る仕事をする割合が多い一方で、中学校では、土日の時間外において、部活動が占める割合が最も多い。部活動ガイドラインにより土日どちらかのみ練習になっているが、部活動指導にかかる時間が小と中の土日の時間外勤務の時間差の要因の一つであると考えられる。

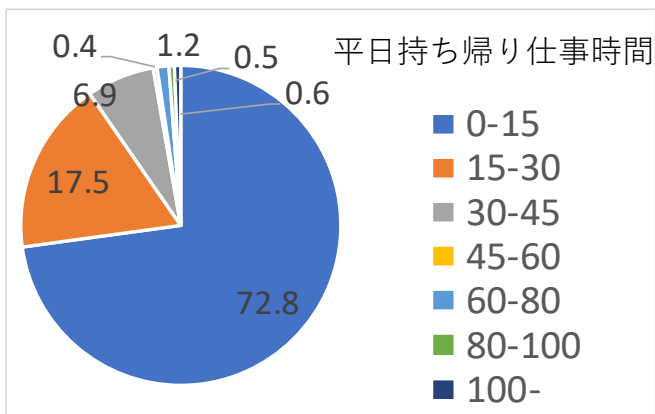
- 土日の時間外勤務で学校に行く割合は、小では 46.0%、中では 85.3%と大きな差が見られた。
- 一方で学級事務の項目を比較すると小と中では 2.5 倍の差があり、小学校では土日に学校に来て学級事務をする割合が高いことがわかった。平日で終わらなかった仕事を土日に学校に行き、仕事をしていると考えられる。



(4) 小・中学校における平日及び土日の持ち帰り仕事時間/月について

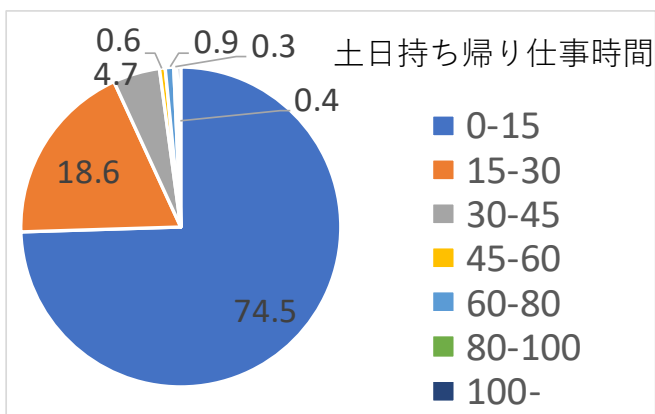
平日持ち帰り仕事の時間/月 (小学校)

平日持ち帰り仕事 (時間)	人数	割合
0-15	2389	72.8
15-30	575	17.5
30-45	225	6.9
45-60	13	0.4
60-80	39	1.2
80-100	18	0.5
100-	21	0.6
平均 11.4時間 (12.0)	3280	100.0



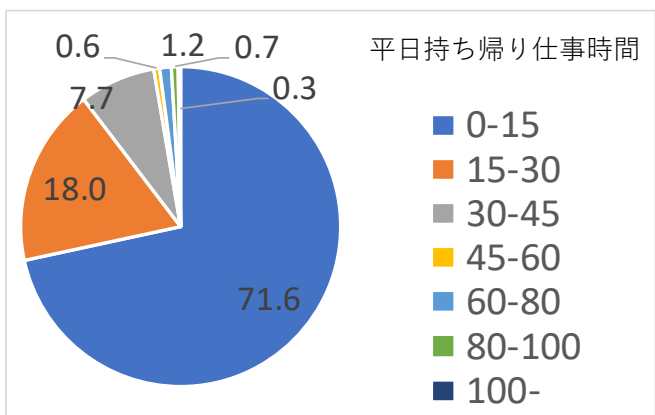
土日持ち帰り仕事の時間/月 (小学校)

土日持ち帰り仕事 (時間)	人数	割合
0-15	2444	74.5
15-30	611	18.6
30-45	155	4.7
45-60	19	0.6
60-80	28	0.9
80-100	11	0.3
100-	12	0.4
平均 10.0時間(11.8)	3280	100.0



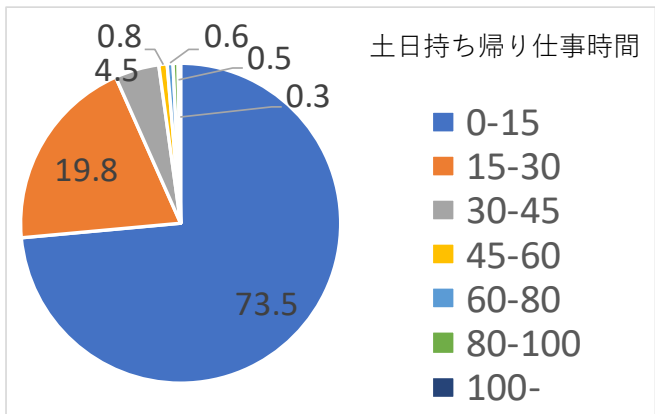
平日持ち帰り仕事の時間/月 (中学校)

平日持ち帰り仕事 (時間)	人数	割合
0-15	850	71.6
15-30	214	18.0
30-45	91	7.7
45-60	7	0.6
60-80	14	1.2
80-100	8	0.7
100-	3	0.3
平均 10.5時間 (11.6)	1187	100.0



土日持ち帰り仕事の時間/月 (中学校)

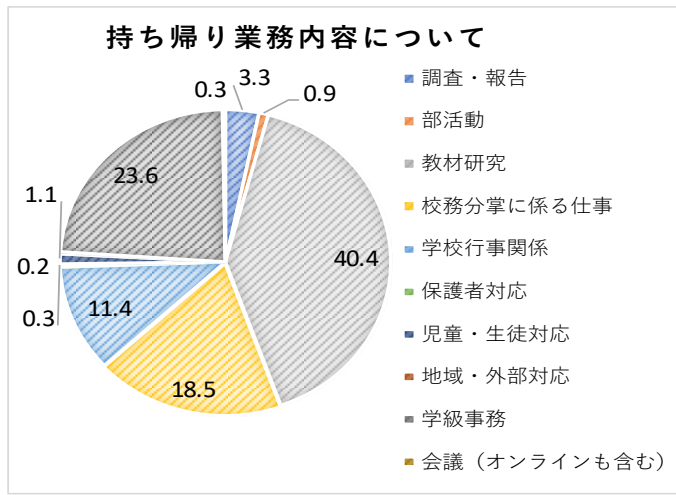
土日持ち帰り仕事 (時間)	人数	割合
0-15	873	73.5
15-30	235	19.8
30-45	53	4.5
45-60	10	0.8
60-80	7	0.6
80-100	6	0.5
100-	3	0.3
平均 9.4時間 (10.8)	1187	100.0



	平日持ち帰り(h)	平日持ち帰り割合	土日持ち帰り(h)	土日持ち帰り割合
<b>2023 小学校</b>	<b>11.4 時間</b>	<b>64.2%</b>	<b>10.0 時間</b>	<b>60.4%</b>
2022 小学校	12.0 時間	69.4%	11.8 時間	68.6%
<b>2023 中学校</b>	<b>10.5 時間</b>	<b>57.3%</b>	<b>9.4 時間</b>	<b>55.6%</b>
2022 中学校	11.6 時間	59.0%	10.8 時間	60.3%

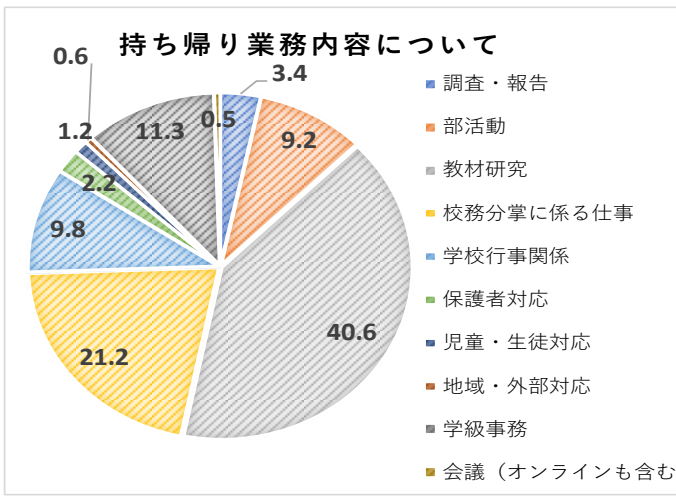
持ち帰り業務 (小学校)

時間外業務の内容	人数	割合
調査・報告	136	3.3
部活動	38	0.9
教材研究	1680	40.4
校務分掌に係る仕事	771	18.5
学校行事関係	473	11.4
保護者対応	14	0.3
児童・生徒対応	44	1.1
地域・外部対応	9	0.2
学級事務	984	23.6
会議 (オンラインも含む)	12	0.3
合計	4161	100.0



持ち帰り業務 (中学校)

時間外業務の内容	人数	割合
調査・報告	48	3.4
部活動	130	9.2
教材研究	574	40.6
校務分掌に係る仕事	300	21.2
学校行事関係	139	9.8
保護者対応	31	2.2
児童・生徒対応	17	1.2
地域・外部対応	8	0.6
学級事務	159	11.3
会議 (オンラインも含む)	7	0.5
合計	1413	100.0



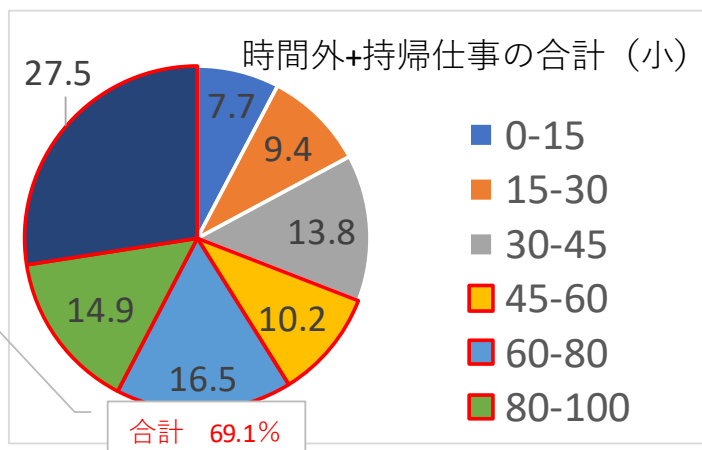
- 平日及び土日持ち帰り仕事時間について、2022 年度と比較すると小・中学校とも減少している。また、持ち帰りの割合も 22 年度と比較すると減少しており、働き方改革が進んでいることがわかる。
- 小学校は平日・土日とも約 6 割弱、中学校は平日・土日とも約 5 割強の教職員が持ち帰り仕事をしていることがわかった。小・中学校を比較すると、小学校では持ち帰り仕事時間をしている割合が高く、中学校では時間外在校等勤務をしている教職員が多いと考えられる。
- 小・中学校とも持ち帰り業務の多くは教材研究や分掌に係る仕事、学級事務であり、時間外在校等時間の業務に含まれる業務であることから、持ち帰りについても県が把握する必要がある。



(5) 小・中学校における平日時間外+持ち帰り仕事時間/月について

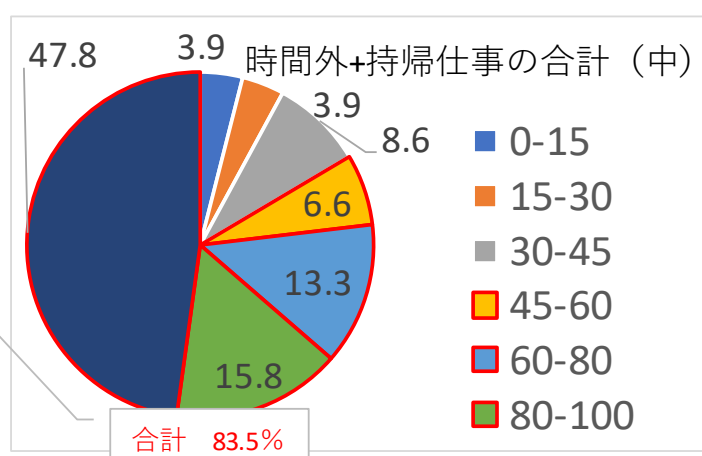
時間外+持帰仕事の合計/月（小学校）

時間外+持帰仕事の合計（時間）	人数	割合
0-15	253	7.7
15-30	310	9.4
30-45	452	13.8
45-60	336	10.2
60-80	542	16.5
80-100	490	14.9
100-	902	27.5
合計	3285	100.0



時間外+持帰仕事の合計/月（中学校）

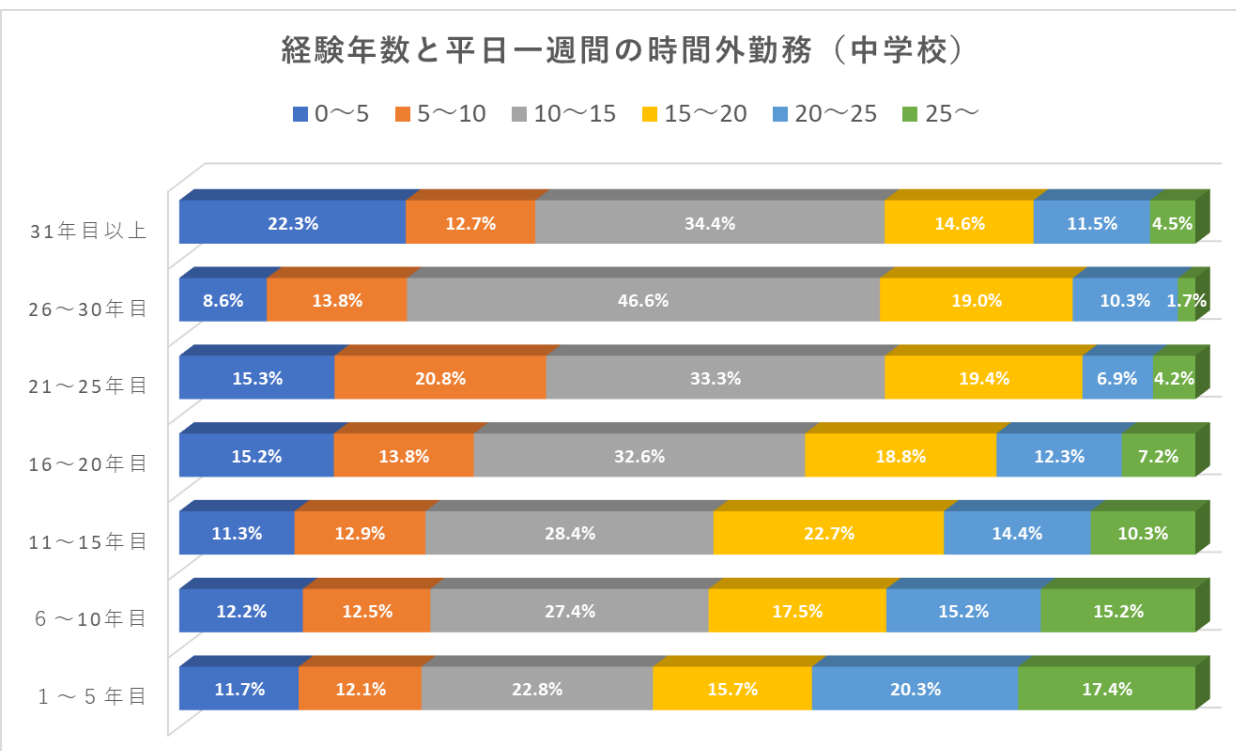
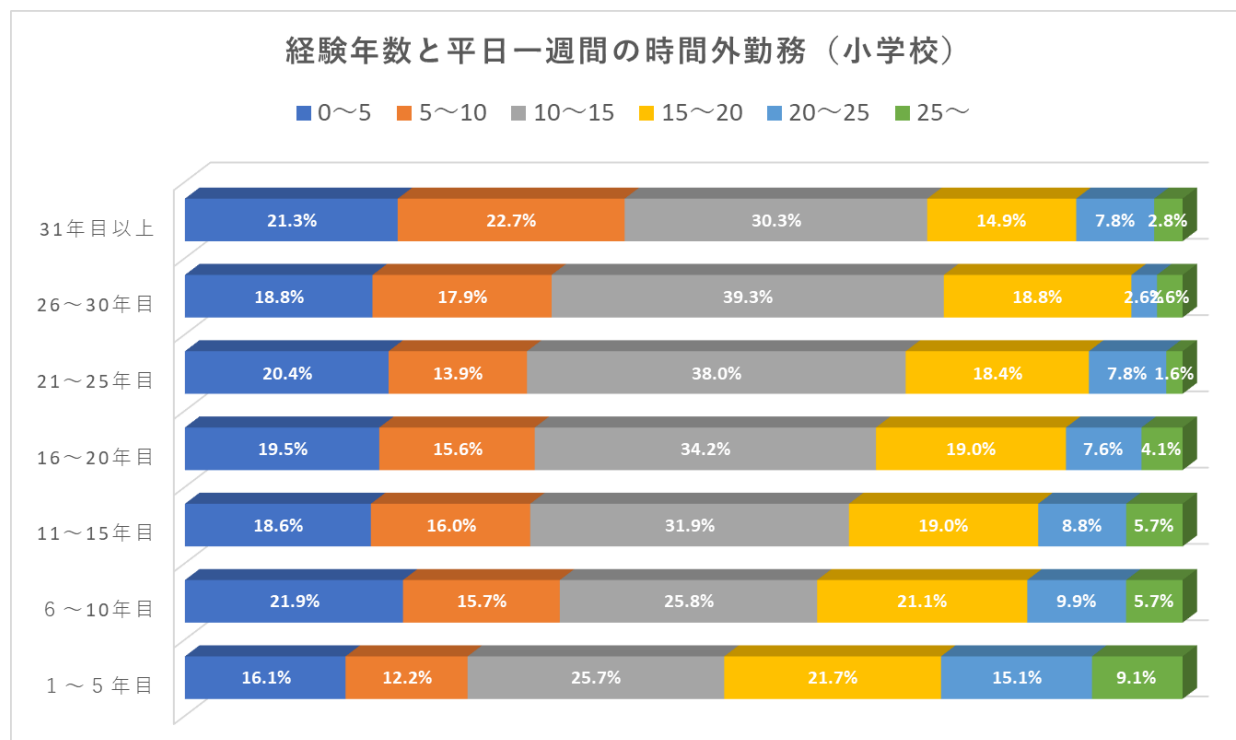
時間外+持帰仕事の合計（時間）	人数	割合
0-15	47	3.9
15-30	47	3.9
30-45	102	8.6
45-60	79	6.6
60-80	158	13.3
80-100	188	15.8
100-	569	47.8
合計	1190	100.0



	月 45 時間以上	月 80 時間以上
<b>2023 小学校</b>	<b>69.1%</b>	<b>42.4%</b>
2022 小学校	69.1%	39.5%
<b>2023 中学校</b>	<b>83.5%</b>	<b>63.6%</b>
2022 中学校	70.1%	43.1%

- 時間外+持ち帰り仕事時間について、2022 年度と比較すると特に中学校が増加している。
- 特に月 45 時間以上の時間外をしている割合について小は 7 割、中は 8 割であり、多くの教職員が改正給特法で示されている時間外労の上限時間である月 45 時間以内が困難であることがわかる。特に、土日の時間外勤務を新たに調査したことで中学校の割合が増加したと考えられる。
- 過労死ラインである月 80 時間以上の割合について、小・中学校ともに昨年度を大きく上回っている。特に小では約 4 人に 1 人、中では約 2 人に 1 人が月 100 時間以上の時間外労働をしている結果から、早急な改善が必要であると言える。

(6) 小・中学校における経験年数と一週間の平日時間外勤務の関係について



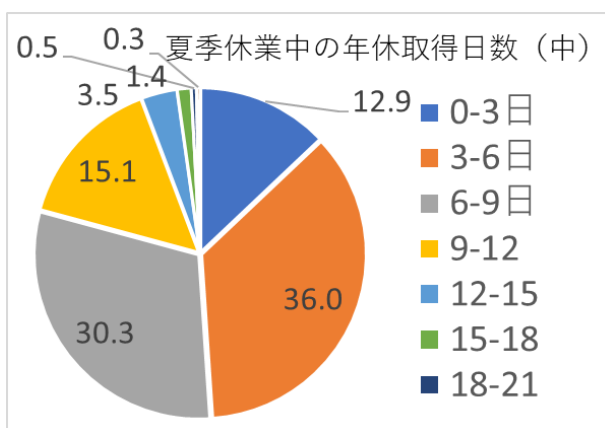
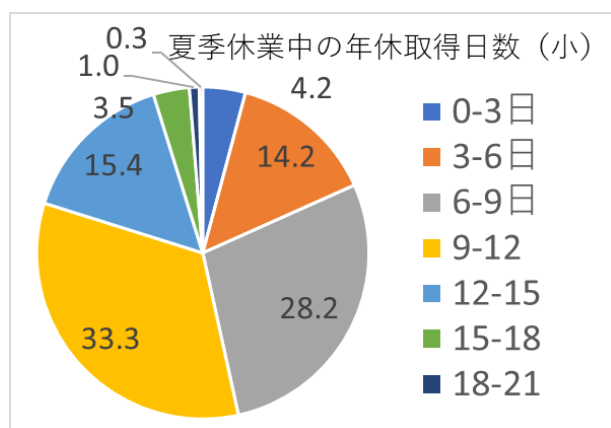
- 経験年数と一週間の平日の時間外勤務の相関関係を比較すると、小中ともに1～5年目までが遅くまで残って時間外勤務をしている傾向が見られた。経験年数が浅い＝時間外勤務が多いことは、教職の魅力伝える上でマイナスであり、改善が必要である。
- 経験年数があがるにつれて時間外勤務週15時間以上の割合は減少傾向が見られるが、小学校では6～10年目で平日0～5時間の時間外勤務の割合が高い一方で、中学校では26～30年目の割合が最も低いことがわかった。

(7) 小・中学校での夏季休暇の消化について（9月末日において）

	残っている	残っていない（使い切った）
<b>2023 小学校</b>	<b>6.8%</b>	<b>93.2%</b>
2022 小学校	5.5%	94.5%
<b>2023 中学校</b>	<b>5.2%</b>	<b>94.8%</b>
2022 中学校	5.3%	94.7%

※2023年度の小・中学校別の夏季休暇中の出勤と動静処理について

	あった (勤務したが動静表は変更しなかった)	あった (勤務後に動静表を変更した)	夏季休暇中の出勤は なかった
<b>2023 小学校</b>	<b>45.8%</b>	<b>20.5%</b>	<b>33.7%</b>
2022 小学校	49.8%	20.9%	29.3%
<b>2023 中学校</b>	<b>43.5%</b>	<b>21.3%</b>	<b>35.2%</b>
2022 中学校	25.3%	42.8%	31.9%



- 小・中学校とも 93%の教職員が夏季休暇を使い切っていることがわかる。しかしながら、約5～6%の教職員は残っていると回答していることから、全ての教職員が本来の夏季休暇の取得期間である6月～9月までに使い切ることができていない状況であると推察できる。
- 夏季休暇中に勤務したにも関わらず、動静表を変更しなかった割合は小中学校で約 45%であった。つまり、小中学校では 2 人に 1 人が夏季休暇中に出勤し、休暇のまま勤務していることがわかる。
- 夏季休業中の年休の取得日数を比較すると、小学校では6日以上が約 80%、中学校では約 50%と中学校では夏季休業中の年休取得日数が小学校より少ないことがわかる。中学校では、部活動の練習や各種大会の週休等により休取得日数が少ないと考えられる。

(8) 小・中学校別の子どもと向き合う時間の確保

※子どもと向き合う時間とは、休み時間や放課後において、子どもたちに補習したり遊んだり相談にのったりする時間のことを指します。

	確保できている	どちらかという 確保できている	どちらかという 確保できていない	確保できない
<b>2023 小学校</b>	<b>13.3%</b>	<b>46.1%</b>	<b>31.7%</b>	<b>8.9%</b>
2022 小学校	12.2%	47.1%	30.9%	9.9%
<b>2023 中学校</b>	<b>11.9%</b>	<b>48.7%</b>	<b>30.6%</b>	<b>8.8%</b>
2022 中学校	14.2%	45.0%	31.5%	9.3%

※プライベートな時間の確保

	確保できている	どちらかという 確保できている	どちらかという 確保できていない	確保できない
<b>2023 小学校</b>	<b>12.5%</b>	<b>43.7%</b>	<b>31.0%</b>	<b>12.8%</b>
<b>2023 中学校</b>	<b>7.0%</b>	<b>33.4%</b>	<b>39.3%</b>	<b>20.3%</b>

- 小・中学校ともに子どもと向き合う時間の確保について「確保できている」、「どちらかという  
と確保できている」と肯定的に回答している割合は前年度同様約 60%である。
- 小・中学校ともにプライベートな時間の確保について「確保できている」、「どちらかという  
と確保できている」と肯定的に回答している割合は小学校では約 55%、中学校では約 40%と差が  
見られた。中学校では、約 85%の教職員が土日に時間外勤務をしていることから、プライベ  
ートな時間が確保できていないと否定的な回答の割合が高いと考えられる。